

ちょっと ブレイクしませんか?

34丁目の奇跡 [1994年米国]

第 9 回

イソップ物語の小話「女魔法使」……魔法使の女が神様の怒りを解く呪文や御祓(おはらい)を売り物にして、またそれがよく当たり、それで相当なお金をためこんでいた。ところが、人々はこの女を宗教の改革を企てる者だと告発し、裁判を受けさせ、罪状を挙げて死刑判決を下した。女が裁判所から引き出されるのを見た者が言うには「おい、お前は神様の怒りを遠ざけると公言するくせに、どうして人間の説得ができなかったんだ」

NY西34丁目の老舗デパート・コールズは、営業不振からランバーク社長率いるライバル・デパートに買収されようとしていた。Xマス恒例の感謝祭パレードのサンタ役トニーが酔払って、イベント責任者のドリーは困り果てる。そこへ老人クリスが現われ、自分こそサンタだと言い張る。彼女はクリスを雇う。Xマスセールサンタコーナーでクリスは、丁寧に子供たちのプレゼントの相談に乗った。クリスのお蔭で、コールズはXマス商戦で圧倒的な人気を集めた。ドリーの娘スーザンが母親のボーイフレンドである弁護士ブライアンとクリスを訪ねた。彼女は母親からサンタは実在しないと教え込まれてきたが、ろうあ者と手話で話す彼を見て本物のサンタだと確信する。コールズの巻き返しに怒ったランバークは、クリスを陥れようと、サンタ役を失ったトニーを雇い、嫌がらせをさせる。はずみで彼を殴ったクリスは精神病院に送られる羽目に。「信じる心を失ったら、疑うだけの人生になってしまう」と語るクリスにドリーも反省し、ブライアンに助けを求める。彼は強制収容に異議を申し立て、聴問会を要求。ブライアンは病院にクリスを訪ね、「あなたはサンタだ。2人でサンタが実在することを証明しよう」と言う。コールズは社が一丸となってクリス救済のキャンペーンを展開。NY中が注目する聴問会が始まり、いよいよ裁定となった時、スーザンは判事に1ドル紙幣を差し出す。判事は紙幣に印刷された「我々は神を信じる」という文を見て、「サンタも存在する!」と明言。異議は認められ、34丁目に集まった大観衆から歓声が轟いた。

本物のサンタクロースを自称する老人が巻き起こす騒動を通じて、信じることの素晴らしさをうたい上げた心温まる作品だ。「悪の枢軸」などと地球規模でサタン狩りが行われる時代。夢と希望が乏しい昨今…

精神科医・映画評論家

かゆ かや ゆう へい
粥川 裕平

国立大学法人名古屋工業大学
保健センター長
大学院産業戦略工学専攻教授

